

「賀川豊彦のお宝発見」その3

新聞記事にみる賀川豊彦 (34)

1910 (明治43) 年~1963 (昭和38) 年 (神戸版)

第34回 「賀川追放か」「天皇への御進講」

「賀川豊彦氏追放か」

1946 (昭和21) 年5月9日「神戸新聞」

**賀川豊彦氏追放か**  
**反采的講演たゝる**

道報PU



賀川豊彦氏

八日附アメリカ進駐軍向け星條旗紙がUP通信の報道として傳へるところによれば去る三月十二日勅選議員になつた賀川豊彦氏は聯合國軍司令部より好ましからぬ人物としてその議席を得ることをさし止められたことである、理由には賀川氏が戦中反アメリカ的な講演を行ひ、日本の東亞侵略策を支持した事によるものである

**貴族院の追放**  
**十六日迄に完了**

貴族院議員一條孝公、山本清伯、澤島隆太郎男、岩倉道俱男、堀切善次郎、宮田光雄、安宅豚吉、河原田稼吉、兒玉謙次、平沼亮三

山内豊彦侯の十一氏は追放令該管により審議院を提出中のところ八日上奏御裁可の手續きがとられたこれで貴院の追放者は百十五名となつたが貴族議員十五名を除く余の議員と目される約三十九名の議員に関しては目下質問書を政府に回送し内閣の審査に附してゐるので十六日の臨時議會召集日までは追放必要な議院の決議が認められるものとみられてゐる

## 賀川豊彦氏追放か

### 反米的講演たゝる

#### UP 報道

八日付アメリカ進駐軍向け星條旗紙が UP 通信の報道として伝えるところによれば去る三月十二日勅選議員になった賀川豊彦氏は連合軍総司令部より好まぬ人物としてその議席を得ることをさし止められたとのことである、理由は賀川氏が戦争中反アメリカ的な講演を行ひ、日本の東亜侵略政策を支持したことによるものである。

#### 貴族院の追放 十六日迄に完了

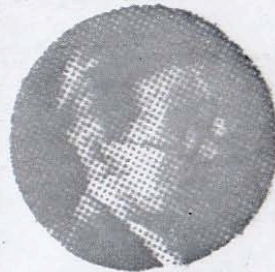
貴族院議員一條実孝公、山本清伯、深尾隆太郎男、岩倉道俱男、堀切善次郎、宮田光雄、安宅弥吉、河原田稼吉、児玉謙次、平沼亮三、山内豊景侯の十一氏は追放令該当により辞職願を提出中のところ八日上来御裁可の手續きがとられたこれで貴院の追放者は百十五名となったが貴族議院十五名を除く爾余の該当者と目される約三十九名の議員に関しては目下質問書を政府に回送し内閣の審査に附しているので十六日の臨時議会召集日までには追放必要な諸般の処置が講じ得られるものとみられている。

「賀川講演：戦争放棄の世界的意義」

1946（昭和21）年9月19日「神戸新聞」

# 文化國家へ

## 賀川氏の記念講演



神戸市では復興まつり行事のよつとして十八日午後二

時半から山手國民学校で賀川豊彦氏を迎へて記念大講演會を開催した。賀氏は「永久戦争放棄の世界的意義」と題して大要つぎの如き講演をこころみ目前の事象にとらはれがちなる市民に多大の感銘を興へた（寫眞は賀川氏）

◇…世界の歴史を繕くに戦争が終り平和が五十年續けば必ず世界的な文化が花を結んでゐる、こ

のたゞ日本の憲法に戦争放棄を採り入れることになつたがこれは決して諸外國に対するカムフラジニーではなく世界の文化史上に大きな意義をもつ大衆的な精神である、すなはち二十二年

節印度の阿育王は戦争を全く放棄した結果平和な佛教文化が榮え、つひに世界にその光彩をばなつたのであるが、これで日本は世界で二度目の戦争放棄をしたわけだ、この意義をしつかり肝に銘じて日本の再興にあたらねばならぬ、全國民が大きな氣持ちになつて五十年後をみつめ

ながら文化的な復興に乗り出したならば必ず世界を風靡する文化が日本を舞台として生れるだらう

## 文化国家へ 賀川氏の記念講演

神戸市では復興まつり行事の一つとして十八日午後一時半から山手国民学校で賀川豊彦氏を迎えて記念大講演会を開催したが同氏は「永久戦争<sup>ほうき</sup>拋棄の世界意義」と題して大要つぎの如き講演をこころみ目前の事象にとらはれがちな市民に多大の感銘を与へた（写真は賀川氏）

- ◇ 世界の歴史を<sup>ひもと</sup>繙くに戦争が終り平和が五十年続けば必ず世界的な文化が花を結んでいる、このたび日本の憲法に戦争拋棄を採り入れることになったがこれは決して諸外国に対するカムフラージュではなく世界の文化史上に大きな意義をもつ大乘的な精神である、すなはち二千百年前印度の阿育王は戦争を全く拋棄した結果平和な仏教文化が栄え、つひに世界にその光彩をはなつたのであるが、これで日本は世界で二度目の戦争拋棄をしたわけで、この意義をしっかり肝に銘じて日本の再興にあたらねばならぬ、全国民が大きな気持ちになって五十年後をみつめながら文化的な復興に乗り出したならば必ず世界を風靡する文化が日本を舞台として生れるだらう。

「賀川豊彦：社会事業について御進講」

1947（昭和22）年4月29日「神戸新聞」



きよう天長節を迎えられる天皇陛下御近影

# 社會事業や文化方面御勉強

御健康いよいよ勝れさせらる

天皇陛下は二十九日第四十六回の  
天皇節をお迎えになる、この日陛  
下は午前九時宮中三殿に御拜、天  
皇節祭を行われ、十時十分からは  
理講の間で各皇族方に御対面、つ  
いで吉田首相以下、親任官、宮内官  
などの拜賀をうけられる

御健康はいよいよよくなっておら  
れるが、今春來臨会、遊幸など  
と政界は多忙な期間であつたた  
め陛下も自然地方行幸もされず  
すつと城内ですこされた、そ  
の間毎日のように御文庫から御

政務室におでましの途中勸業奉  
仕の地方民を激励され、あるい  
は賀川豊彦氏から社業事業につ  
いての御進講もおまきになり、  
その他東北大学教授内義雄博士  
から三回にわたつて東洋倫理を  
最近では台北帝大教授足立仁博  
士から地中のバクテリアについ  
て御進講を聴かれるなど社業事  
業や文化に関する御勉強を続  
けになつている

政治大権をもたれる陛下も五月三  
日からはいよいよ國民聯合の奉獻  
たる天皇となられるが、それより

さき二十日は午前十時から最後の  
皇清院本堂へ、午後は最後の議室  
會議で皇皇典範止との御のたま  
ついで現行制度による最後の御諮  
問による會議が行われ、かくて五  
月三日からは主權を八千万國民の  
うえにしつかと御譲したなるが、  
それからは政治に関する大権は一  
切持たれず従つて兩院に關しては  
信賴される國民に委され、陛下も  
お氣遣いなられ議室中よりおとも  
重大な變動なきかぎり地方行幸な  
どにもお出かけになるようになる  
と伺ひは語つている

## 社会事業や文化方面御勉強

### 御健康いよいよ勝れさせらる

天皇陛下は二十九日第四十六回の天長節をお迎えになる、この日陛下は午前九時宮中三殿に御拝、天長節祭を行われ、十時十分からは<sup>はいえつ</sup>拝謁の間で各皇族方に御対面、ついで吉田首相以下新任官、宮内官などの拝賀をうけられる。

御健康はいよいよすぐれておられるが、今春来議会、選挙などと政界は多忙な期間であったため陛下も自然地方行幸もされずずっと宮城内ですごされた、その間毎日のように御文庫から御政務室におでましの途中<sup>はいえつ</sup>勤労奉仕の地方民を激励され、あるいは賀川豊彦氏から社会事業についての御進議もおききになり、その他東北大教授竹内義雄博士から三回にわたって東洋倫理を最近は元台北帝大教授足立仁博士から地中のバクテリアについて御進講を聴かれるなど社会事業や文化に関する御勉強をお続けになっている。

政治大権をもたれる陛下も五月三日からはいよいよ国民統合の象徴たる天皇となられるが、それよりさき三十日は午前十時から最後の枢密院本会議、午後は最後の皇室会議で皇室典範廃止その他の件について現行制度による最後の御詔問による会議が行われ、かくて五月三日からは主権を八千万国民のうえにしっかりと御渡しになるが、それからは政治に関する大権は一切持たれず従って国政に関しては信頼される国民に渡され、陛下もお気軽になられ議会中といえども重大な変動なきかぎり地方行幸などにもお出かけになるようになるうと側近は語っている。